

持ち株会社のACKグループ社長に20日付で、オリエンタルコンサルタンツ社長も務める野崎秀則副社長が就任した。2020年東京五輪の開催や国土強靱化基本法の成立など、1年前と比べると先行きに明るさが増してきたが、中期経営計画「ACKG2013」を実現するには、グループ全体をさらに強化すべきと気を引き締める。現状の課題や重点的に取り組む事項などを聞いた。

\* \* \*

— オリコンサルなど連結子会社5社の基本的な経営方針は  
「前期(13年9月期)から始まったACKG2013は、経営計画策定委員会でわたしが委員長となつて作成した。この方針を踏襲していく。ビジョンに掲げた20年に売上高500億円を、どう達成するかが当面の課題だ。グループ全体をみたと、いまの状態では達成が厳しい」

— 達成のためにはどのような対応策が必要か  
「各社とも特徴があり、所定の

### ACKグループ 野崎 秀則氏



— 新社長 — に聞く

## 個性磨きシナジー本物に

売上げと利益を上げているが、まだまだ力を発揮させることができる。個々の会社をもっと強くすることで、連携が深まると考えている。各社が光り輝かない限り、グループとして総合的な力を発揮することはできない」

「各社がオンリーワン、ナンバーワンをつくり出す気持ちを強く持ち、行動に移さないと伸びていかない。ACKG2013は、計画としてもっと強化しないといけないし、全社員がもっと意識を高める必要がある。シナジーや連携

— 重点化事業として、グループ全体で50くらいプロジェクトが動いている。チャレンジができる良い仕組みだが、この事業をトップレベルにするという覚悟を持ったもの、野心的なものがまだ少ない。将来、有望だから投資すると

「重点化事業として、グループ全体で50くらいのプロジェクが動いている。チャレンジができる良い仕組みだが、この事業をトップレベルにするという覚悟を持ったもの、野心的なものがまだ少ない。将来、有望だから投資すると

いうことを考え切って、事業を設定しないといけない。重点化事業をもう一度、各社に問い直す。ACKG2013を当事者意識を持って取り組むには、こうしたことを再確認する必要がある」

— 海外事業の展開は

「パシフィックコンサルタンツグループと50%ずつ出資して設立したインターアクトの中に連携委を再確認する必要がある」  
「ワンストップサービスを表明しているが、事業そのものが総合化している。技術の統合化も求められている。こうしたニーズにまだ十分とは言えないので、気持ちを共有できれば、ぜひ仲間に入ってほしいと思っている」

\* \* \*

— 重点化事業として、グループ全体で50くらいのプロジェクが動いている。チャレンジができる良い仕組みだが、この事業をトップレベルにするという覚悟を持ったもの、野心的なものがまだ少ない。将来、有望だから投資すると

### 記者の目

建設コンサルタンツ協会では、対外活動委員長として、国土交通省などの意見交換会で切り込み隊長を務め、納得がいかない発注者の回答には食い下がることも。グループの総帥に就任して忙しさに拍車がかかるが、経営のことを考えるのは楽しんでいて、責任の重さよりやりがいの大きさを歓迎する。廣谷彰彦前社長と同様にエネルギーで、先頭に立つて引っ張っていくタイプ。単身赴任で山梨の自宅には月に1回帰宅。休日は「気分転換にジョギングしている」

(OAKA・ひのじ) 1982年3月立命館大理工学部土木工学科卒業、同年4月オリエンタルコンサルタンツ入社。2000年中央設計技術研究所社長、05年オリエンタルコンサルタンツ取締役執行役員関西支社長、07年常務役員事業本部長、08年SIC事業本部長、09年社長、12年12月ACKグループ代表取締役副社長を経て現職。京都府出身。58年9月23日生まれ、55歳。